

市民活動状況
(2月末日現在)

市内NPO法人数	32 団体
当センター登録団体数	151 団体
当センター登録会員数	6,466人
来館者数	957人
印刷機利用枚数	5969枚

ひびき



発行枚数 650枚 メール配信 100団体

発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ヶ崎市市民活動センター長 島村宏之

龍ヶ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。

会議スペース・作業スペース・印刷機・紙折り機・パソコン・多目的室等(1階)や

大会議室・小会議室・パソコン室・和室・工作室(2階)・陶芸室(1階外倉庫隣り)がご利用いただけます。

開館時間 = 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。

休館日 = 月曜日および年末年始、特別に定める日

〒301-0004 龍ヶ崎市駒馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571

E-mail r-suwan@titan.ocn.ne.jp URL https://ryugasaki-shiminkatsudo.net



市民団体活動紹介シリーズ No.19「龍ヶ崎盛り上げ隊」

目指せ！市民活動日本一

龍ヶ崎市内中心市街地新町の商家跡地に残されている築90年を越える大谷石の石蔵をシンボルに、中心市街地の歴史的奥深さを理解しながら地域の活性化について活動しているという趣旨で、2022年4月、「龍ヶ崎盛り上げ隊」が発足。これまで、「龍ヶ崎機関車推進協議会」主催の竹灯籠イベントのサポートや市街地のまち歩きなどの活動をされました。

会の特色は、様々な年齢層、キャリアの方が集まったこと。NPO法人代表、現役の大学生さん、子育て中のママさん、市民活動団体代表、市議会議員さんも個人的に関心を寄せていただきご参会ただいております。またメンバーは個別に活動展開しており、会のメンバー同士で情報交換しながら支援し合って活動展開している点も他にはない活動の特色だと思います。

今年の予定は、去年に引き続き龍ヶ崎機関車推進協議会主催の竹灯籠イベントのサポートを始め、会のメンバーが主催者として加わっている「りゅうフェス」の支援もしていきたいとのこと。

竹灯籠イベントのサポートでは、去年は諸事情あって出来なかった中心市街地店舗様、事業所様の協力の下、竜ヶ崎駅から続く商店街竹灯籠点灯イベント実施に向けて、様々なアイデア出ししながら調整しているそうです。

定例会は、新町イベント館にて毎月開催しています。常時参加者を募集中でお気軽にお声をかけくださいとのこと。

龍ヶ崎盛り上げ隊HP問い合わせフォームよりお問い合わせください。

<https://ryugasaki-ib.wixsite.com/-site-1>



3月5日(日) 映画「バレンタイン－揆」から「チョコレートの真実を知る」ワークショップ



市民生活の知恵出し講座

映画鑑賞「バレンタイン－揆からチョコレートの真実を知る」ワークショップに参加して

ガーナの児童労働問題について、カカオ豆の生産過程の実際を視聴しながら、貧困家庭の教育難民に対する現地の取り組みと日本人 女の子3人の現地訪問による出会い、悩み、闘いの物語を見てワークショップしました。映画を見た後、各自の感想を意見交換しましたが、ガーナの貧困者達の素顔はがとても明るく印象に残り、参加者間での話し合いでは豊かさを憶えました。今回、QRコードによるアンケートのリクエストもありました。



講師:もりや市民大学運営委員会副委員長 高木 保氏

講師の高木さんは1999年に胃がんの宣告を受け、身辺整理もやりましたが、術後に目を覚まし、生きていることを実感しました。手術で胃を大きく切ったので大幅に痩せてしまい、首の脊柱管狭窄症になり、また手術を受け、仕事を辞めて長い間リハビリしながら近所の散歩を続けているときに町会の役員から声をかけられました。「ヒマだったら、町会の仕事を手伝ってほしい」と頼まれて続けているうちに、「よくやってくれて、ありがとう」と言われ、素敵な言葉だと感じました。自分が何もできないでダメだと思っている時に認めてもらい、すごくうれしかったです。そこからボランティア活動を始め、20年間継続しています。

2004年に協働のまちづくり条例を作してほしいと市民有志で市に要望し、2006年に守谷市の協働のまちづくり条例ができましたが、何も始まらないので、市民がアイデア発表会を開催し、その中の一つに「もりや市民大学」がありました。生涯学習を受けている人はそこで満足してしまっているからという理由で予算化は見送られましたが、その後、条例に謳われている「協働のまちづくりのために人材を育成しなければならない」との視点から講座を組み立て、2012年に第1回の市民大学が半年間で開講した。そこから10年が立ち、1,000人の修了生を輩出してきましたが、何回も受講する方たちがいるので、実質は400人です。そこからもりや河津桜の会、健幸ウォーキングもりや、もりや花のまちづくり、守谷ネイチャーライフなど様々な市民団体が立ち上がり、活動しています。

現在、市民大学のコースは「守谷を知るコース」「いきいきシニアコース」そして市のまちづくり協議会の人材育成という想いに応える形で生まれた「まちづくり協議会コース」の3つがあります。

なかでも、「守谷を知るコース」は1番人気があり、定員30名以上の応募があります。この「守谷を知るコース」は入門編として受講され、そこから地域づくりの担い手に育っていくことになればと思っています。

郷土愛を育てるには、龍ヶ崎なら龍ヶ崎のよさを人に伝えることが大事です。ここは面白いと愛着を持って地域の自慢を話せる人の存在が大きいです。そこから龍ヶ崎が大好きな人を増やすことができます。「地域の担い手は自分たちで発掘するという意識」が大切です。元々そこにいる人材を掘り起こしていくことが担い手を増やすことになるのです。

龍ヶ崎ヒストリー第14回「並木道」

永禄11年(1568)に土岐胤倫は、龍ヶ崎城の城主になりこの地を支配しますが、当時の城下は度重なる鬼怒川(現小貝川)の氾濫により低地部は沼沢となっていて、人が暮らすには不向きな土地でした。

これを打破するため胤倫は城下の南側に堤防を築き、沼沢を開拓し町づくりを行いました。堤防は馴馬村、龍ヶ崎村、大徳村、宮淵村、生板村までの広範囲に及び、これにより頻度の水没はなくなりました。

こうした開拓事業により城下は平坦で町づくりに好条件の土地に生まれ変わりました。そして胤倫は大統寺の創建や八坂神社の遷座、道の整備等、この地の町づくりを精力的に行いました。それが現在の龍ヶ崎中心市街地の原型となっています。

江戸時代になると、馴馬から大徳町境界線までの堤防に赤松と黒松が植えられ(諸説あり)、やがて松の巨樹が連なる並木道となりました。

この並木道は大正～昭和期、絵葉書や観光案内などに紹介され、龍ヶ崎の名所として、人々に親しまれてきました。こうした経緯から、昭和49年(1974)に、市の木に松が制定されました。また♪若い二人の恋あかり並木の松でチョイト消した♪と、龍ヶ崎錦でも唄われております。

なお、並木道の恩恵は近年まで続きます。昭和10年代に2回の小貝川の決壊で、市街地を洪水から守ったのはこの並木道だといわれています。

現在は小貝川の堤防が堅剛になり水害の心配も少なくなり、道の両側には住宅が広がり、生活道路となり、本来の防災の役割は低くなりました。

残念ながら松並木は松くい虫や環境の変化によってほぼ全滅し、往時の面影は殆ど残っておりません。



龍ヶ崎短歌会

晩鐘」と名付けた野菜直売所オープンの日は穏やかなりし
越澤 太朗
駅ピアノ奏者の人柄映しけり苦難を越えし生れの良さを
後藤 恭介